

The magazine for high net worth individuals

SEVEN

MONEY CULTURE

winter 2004

006

世界を舞台に活躍する
資産家のための
マネーカルチャー誌
「セブンマネーカルチャー」

失敗を恐れない服装術-1

攻めの姿勢で自分自身をプロモートする

バトロネへの道-6

コンテンポラリーアートと向き合う

住友信託銀行のプライベートバンキング



特集 スイス

輝ける富の国

特集 韓国

ソウル・釜山・濟州島 愉樂の旅へ

湯川元恭 Yukawa Motoyasu

1957年、東京生まれ。'81年に東京国際大学商学部卒業後、日本興業銀行入行。本店営業部、預金部、主要支店勤務を経た後、興銀を退職。'00年スイス最大のプライベートバンク、ピクテ銀行の日本法人、ピクテ ファイナンシャル マネジメントコンサルタント株式会社の立ち上げに参画。日本人で初めてピクテのプライベートバンカーとなった国際派金融マン。現在同社取締役 個人金融資産部部長。



Secrets of a Private Banker

世界最高の エステティックサロン

今月号の「セブンマネーカルチャー」で紹介されているクリニーク・ラ・プレリーとの出会いは、昨年2月です。マネージャのニコル・ハンガーガンブ女史と日本代表の岩崎一平さんが私の事務所をお尋ねになり、日本でのビジネス展開についてアドバイスをさせていただいたことがきっかけです。6月にちょうどピクテ銀行ジュネーブへの出張があり、この機会に伝説のクリニークを訪ねようと思い立ったのです。新しい医療分野に対する関心が高い、クリニーク・デュボアの中原院長夫妻にお声をかけ、CLP治療（アンチエイジングの一種で、リパライゼイション治療）を受ける私の母も加わり、岩崎代表の案内で初めて訪問しました。

ジュネーブ国際空港から、クリニークに手配していただいたリムジンでドラーの町並みに入り、レマン湖畔に立つクリニークに着いたのは、夜の9時過ぎでした。小綺麗な部屋には、夜食用にサンドウィッチが用意され、小ぢんまりとした雰囲気、医療施設のイメージとは異なり素敵なホテルのようでした。翌朝は

快晴で、ルームサービスの朝食前にレマン湖畔をゆっくり散歩し、自然に囲まれたその美しい環境に感動しました。高級ホテル並みのサービス、カロリー・コントロールをしているにもかかわらず大変美味しい、バラエティーに富んだ最高の食事。外科手術まで行える医療施設を備えた完璧な医療体制、数々の変化に富んだプログラム等、日本にはないクリニークでした。エステだけでなく、さまざまな分野の医者がおり、美容外科医、歯科医、心臓外科医までそろえており、日本のエステとはまったく異なっており、総合病院の機能を有しています。

世界中の著名人が集まる 秘密の場所

プログラムの初日に、オーナーのアルミン・マテリー氏の招待で、同じプログラム（通常は1週間）を受ける受診者全員のウエルカムランチが開かれました。世界各国から訪れるとの言葉通り、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの各大陸から、様々な方が参加されていました。ご夫妻やカップルに混じって、お一人で参加している方もかなり見受けられました。お客様は世界82カ国にまたがり、日本からは毎年20名から30名が訪れ、その

半数は男性との説明を受け、驚きました。著名人には枚挙の暇がありませんが、ローマ法王ピオ12世、サウジのサウド国王、ドイツのアデナウアー首相、チャールズ首相、チャーリー・チャップリン、マレーネ・ディートリッヒ、サマセット・モーム等、綺羅星のような顧客リストで、このクリニークが世界規模で、認知されていることがよく分かりました。クリニーク内では当初患者は女性ばかりかと思っていました。意外に男性の滞在者も多く、最近では特にロシア、中国からも来られるとのことでした。男性の受診者の中には政治家や、実業家も多く、欧米ではリーダーの外見イメージはとも、でも大事のため、男性の関心も高いとのことでした。

オーナーのマテリー氏は私の上司でピクテ銀行のパートナーであるチャールズ・ピクテ氏とも大変親しく、最上階にあるマテリー氏専用のスイートルームで色々とお話を伺いました。レマン湖を望む広大なテラスやパーク・コナーまであり、すばらしい内装のレジデンスで、とても印象的でした。氏の日本に対する関心は高く、70年代には来日した経験もありとのことでした。ピクテ銀行の顧客層とクリニーク・ラ・プレリーの顧客層は共通することが多く、ジュネーブのピク

クリニック・ラ・プレリーと クリニック・デュボア

ピクテ銀行がファミリーオフィスサービスの一環として
紹介しているモントルーのクリニック・ラ・プレリー、
そしてこれから富裕層に広がりそうな予感があるDNAバンキングについて紹介する。

テ銀行に立ち寄ってから、クリニック・ラ・プレリーの治療を受ける方も多いのです。今回の滞在中、その素晴らしさを体験し、すっかりファンになりました。私どもでは、ファミリーオフィスサービスの一貫として、クリニック・ラ・プレリーを日本のお客様にもご紹介しています。

新しい歯科医療を提供する クリニック・デュボア

クリニック・デュボアは、私どものオフィスがある帝国ホテル内のインペリアルプラザ4階に有ります。理事長を努められている中原先生は公私ともに親しくさせて頂いており、私どもが提供している医療サービスにおいて、歯科医療やDNAバンキング、東洋医学、漢方医療等で幅広くアドバイスをいただいています。

クリニック・デュボアでは自由診療により、最新の設備と、最高の医療スタッフにより集中的に治療が受けられ、患者は何度も通院することなく、1回の通院で数時間にわたり集中的に治療してもらえます。また、従来の歯科医が主に虫歯の治療（すなわち、虫歯になる患者がいなければ成り立たない従来の歯科医療）に専念しているのに対し、中原先生は予防の分野に特に力を入れており、虫歯にならないための総合歯科医療とそれに付随するさまざまな医療サービスを提供しています。中原先生によれば、現代の最先端歯科医療では、オーラルヘルス

ケアが進み、虫歯の原因となる口内菌を完全に駆除することも可能とのこと、先生がアメリカで学んだ経験（日本では数少ない米国審美歯科学会の認定医）を活かし、まったく新しい歯科医療に取り組んでおられます。

DNAバンキング

中原先生が取り組んでおられることの中に、DNAバンキングが有ります。これは私どもが行っている、プライベートバンキングのような金融サービスとはまったく異なり、一言で言えば「個人の遺伝子情報の採取と登録、保管を行う」新しい取り組みです。DNA情報は口内粘膜を採取することにより行います。このため歯科医が担当しており、日本歯科DNA研究会という組織がスタートしています。

昨年私は中原先生の第1号被験者としてこのサービスを受けました。採取されたDNA情報は厳正な管理の下、ユタ州ソルトレイクにあるセンターで20年間冷凍保存されます。また本人には、DNA情報を記録した、ICカードも交付されます。従来本人確認手段は、血液型判定、指紋照合、歯の治療痕照合でしたが、DNA鑑定が主流になる時代がすぐ来れると思われれます。DNAの情報を保存することにより、家族が抱える財産リスク・事故リスク、疾病リスクの回避に役立てるのです。

リスクの回避

財産リスクとは、保存されたDNA情報により大切な財産を正統な承継者へ移転させることです。刑事事件だけでなく、民事事件でもDNA鑑定は急増しています。本人の死後、隠し子事件が発生するのはその典型です。日本では火葬が一般化しており、死後、遺骨からDNA情報を取ることができないのです。

事故リスクは、不慮の事故にあったときの身元確認です。特に、火災や飛行機事故では、残された遺族が遺体の本人確認する作業は大変な苦痛を伴います。

疾病リスクは将来、子孫が遺伝子治療を受ける際、遺伝子情報が3世代分あることが理想とされており、より正確な遺伝子治療を受けるために、今から準備するのです。2000年6月にヒトゲノムの解読が完了し、急速な遺伝子技術の発展により、いよいよ遺伝子創薬、再生医療、遺伝子治療の時代が近づいています。特に遺伝子治療は2010年ごろには本格化するといわれています。私は将来このDNAバンキングが富裕層を中心に急速に普及すると確信しています。

以上、今回はクリニック・ラ・プレリーとDNAバンキングの話をご紹介します。

今回は医療シリーズ第三弾として、中国の有名な気功術師、張先生をご紹介します。